

市数研だより

令和6年2月16日発行 NO. 7 熊本市中学校数学教育研究会

2月の定例会が2月11日（木）に井芹中学校で行われました。Zoom配信と対面式の両方で開催し、テスト問題作成の意見交換や授業づくりについての話し合いがありました。

1. あいさつ

市数研会長（花陵中学校 田口校長先生）

「数と数字」という本に、瓶ビールの王冠についての話がありました。王冠についているギザギザの数は、世界共通で21個だそうです。物を固定するための接地点の数は、3点または3の倍数の点が適しており、実験をくりかえすことでビールの王冠のギザギザの数は21個が最適だと分かったそうです。



また、スカイツリーや東京タワーなどの建築物には、三角形が関係していることも書かれていました。骨組みをよく見ると、三角形が多く使われているそうです。数や数字の奥深さを改めて感じさせられる本でした。

今年度の定例会も残り2回となりました。先生方、本日もどうぞよろしくお願いします。

2. テスト問題作成・授業づくりについての話し合い

担当している学年に分かれて、テストの出題の仕方や普段の授業で活かせる教材についての話し合いが行われました。



1年部

度数分布表やヒストグラムを生徒が簡単に作成することができるスグラパが便利だという話が出ました。データの活用で、自分たちが収集したデータを分析する授業で活用できそうです。他にも、Kahoot, Canva, Padlet というアプリも、授業づくりで使えそうだという話がありました。

2 年部

「NHK for School」というアプリの中に「アクティブ10 マスと!」という番組があります。番組は10分程度のショートドラマになっており、授業で扱えそうなものもあります。例えば、確率をテーマにした「席替えで気になる人の隣になる確率を求める」という回では、予想とのギャップがあったり条件を変えるとどうなるかを考えることができたりするので、おすすめです。

3. まとめ

市数研副会長(天明中学校 榎木校長先生)

市数研に参加することは、授業についてじっくり話ことができ、授業づくりのヒントをもらうことのできるいい機会だと思います。

私もこれまで市数研に参加してきて様々な話を聞いてきましたが、中でも印象に残っているのは江戸時代の石屋さんの話です。この頃の石の値段は、対角線の長さによって決まっていたそうです。今では三平方の定理を使うと立体の対角線の長さを求めることができますが、当時は違う方法(図1のように横の長さを反対側に移しとる方法)で対角線の長さを測っていたそうです。このような数学に関するおもしろい話を知ることができるのも、市数研に参加するよさだと思います。

今日の定例会でも県大会に向けた授業づくりではないからこそ、普段の授業について考えることができたと思います。

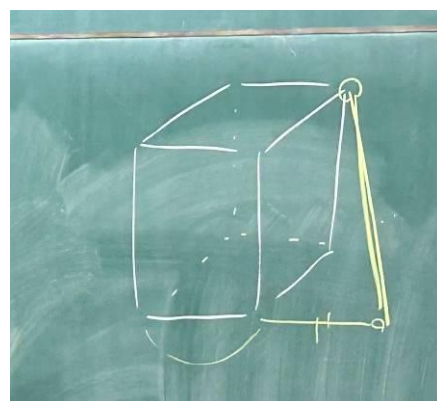


図1 対角線の長さの測り方

4. お知らせ

次回の定例会は、**3月14日(木)19時～ 花陵中学校**であります。

市数研会長の田口校長先生による記念講話を予定しています。

ご質問やご感想がありましたら、下記のアドレスまでお願いします。

shiiba.masahiro@kumamoto-kmm.ed.jp

- ・定例会へ多数の先生方のご参加をお願いします！！
- ・各学校から**1名以上の参加**をぜひともお願いします！！
- ・特に若手の先生方、遠慮せずに参加して、市数研の底上げを図っていきましょう。主任の先生方、呼びかけをよろしくお願いします。

文責 城南中学校 椎葉 将大